

四代目竹本綾之助

襲名によせて

初代綾之助孫 青木裕

このたび綾一さんが、四代目綾之助を襲名されることになったとお聞きし、祖母のところにお弟子さん達が出入りしていた小学生の当時はなつかしく思い浮かべて居ります。

もともと祖母には身内に芸名を継がせる気がなかったのか、三人の娘達には一切義太夫を教えることをしなかったそうです。その上三女は早世し、長女さだ、次女いとも義太夫とは全く無縁の許へ嫁がせ、石井家（綾之助の本名）の家系を継ぐ者さえ無くなった時期がありました。昭和十七年祖母の没後、お弟子さん達の努力で二代目は佳照さん、三代目は綾枝さんに綾之助の名跡は引継がれ、一方家系の方も長女さだの次男（私の弟）がこれを引継ぎ、石井家の名前も保たれました。

このような初代綾之助が、なぜ女義太夫四代目の名跡を残すことができたのでしょうか。ひとえにお弟子さん達が、立派であったからに違いありません。綾之助という名跡にかけられる代々のお弟子さん達の、情熱と思慕の念が、「四代目綾之助」という金字塔を打ちたてられたものに相違なからうと思います。

またこれを現実のものとして、実現してくれた四代目綾之助さんには、ありがとう、頑張った下さい、と心から拍手をおくりたいと思います。

四代目綾之助さんに

期待します

和田博

この度、女流義太夫の草分け的存在であった、竹本綾之助の名跡が、十年振りに復活される事となり大変よろこんで居ります。もう三十年も前の年になりますが、初代綾之助の愛弟子で、将来を期待されながら、天折した竹本綾菊の会「綾菊忌」を、友人達と行っていた折に、三代目のお供をして、浅草山寺での奉納演奏を耳にしたのが、綾一さんとの初対面でした。あれから本当に長い年月が流れました。その間師匠の影となりよくつかえてくれました。

いよいよ重い腰をあげて、その気になってくれた事、ちょっとおそかった様にも思いますが、再び綾之助という名前を、世に出してくれた事は、私の念願が通じ又、亡き三代目さんも安心されたことと思います。

これから増す、重責を負ってこの道を精進してゆくわけですが、江戸娘義太夫のなごりも織り交ぜながら、三代目から受け継いだ芸風、又今日の主流の芸風等を加味して綾之助節をつくり上げて下さい。私は現在、若干体調をくずしておりますが、当日は是非共、演芸場にゆかねばと思っております。

皆様もどうか新綾之助を応援、何卒よろしくお願い申し上げます。

綾之助という名前

水野悠子

綾之助という名前は、明治二十年、初代綾之助が自ら名乗ったと伝わっています。それが四代も続くとは、当時十二才の綾之助は考えてもいなかったでしょう。

明治の芸能界に彗星のようにデビューした初代綾之助は、坊主頭の（！）まるで男の子のような少女でした。綾之助人気はすさまじく、鉄道馬車に広告が出され、綾之助を描いた錦絵やブロマイドが売り出され、綾之助が出演する日は近隣の寄席はがら空きになった



といひます。明治の芸人で「八丁あらし」の異名をとったのは、落語の三遊亭円朝と娘義太夫の綾之助と言へば、芸能界における位置と人気のほどがうかがえます。学生が娘義太夫の人力車の後を「追っかけ」たり、聞かせどころで「ドースルドースル」と叫んだという、明治の娘義太夫ブームを巻き起こしたのが、初代綾之助でした。「前代未聞」「人氣の女王(クイン)」「芸壇の奇跡」などと言われた初代は、結婚して十年ほど家庭に入りましたが、カムバックして昭和初期まで活躍しています。

二代目の誕生は、戦中の昭和十七年。早くから後継者育成を心がけた佳照が襲名することになりました。初代と師弟関係はありませんが、三代呂太夫(のちの十代若太夫)師によると、二代目(当時は佳照)は稽古したものを晩年の初代に聴いて貰うようにしていたということ。太平洋戦争で中断した女義の活動は、昭和二十六年、上野広小路の本牧亭にて再開されます。定期公演が軌道に乗ったのは、戦前から仲間のまとめ役として信望が厚かった二代目の人柄と、地道な努力の賜物でしょう。本牧公演は平成元年来、本牧亭が閉鎖されるまで継続し、以後は国立演芸場に移って今日に至ります。二代目は、戦後の女義公演を定着させた功績者でした。

三代綾之助は、初代の薫陶を受けた直弟子です。大正十四年七月に始まったラジオ放送に、三代目(当時は綾枝)は、十二月に早くも初出演しています。当初は、掛合の一役で

したが、翌十五年十月には「弁慶上使」を一人で語り、新聞のラジオ版には大きく写真と紹介文が載りました。三代目襲名は昭和三十七年。三代目が本牧亭に出演する時に、フリノ客(出演者や主催者の関係者でない一般の観客)が多かったのは、空前の人氣者だった初代から受け継いだ芸の「華」によるものでしょう。

現在、文楽の竹本住大夫師は七代、竹本綱大夫師は九代を襲名されているように、男性の芸名は何代にもわたって受け継がれています。女性の場合は、綾之助の三代がこれまでの最長でした。江戸時代、女の義太夫には繰り返し禁令が出され、天保の改革で牢に入れられてからは、芸名を変えて密かに演奏するという受難の歴史があったからです。

奇術の松旭斎天勝が一座を旗揚げしたのは明治末、女優・松井須磨子の活躍は大正の初めのことでした。彼女たちに先んじて芸能界で一世を風靡した初代綾之助は、女歌舞伎が禁じられて以来、初めて誕生した女のスターと申せましょう。綾之助は、女義にとっても、芸能史の上でも、重要かつ特筆すべき名前だったのです。

このたび四代目を襲名する綾一に、病床の三代目は三味線を弾く手つきをして「あんなやめ・・・」「あんなやめ・・・」と二回おっしゃったそうです。三代目は、「大きな名前を継ぐ責任は重いけれど、あんなやめないでね」と伝えたかったのではないのでしょうか。三代目の他界から九年半、何か忘れ物があ

るような気がしていたのは、女義界に綾之助の名前がなかったからかもしれない。新・綾之助の誕生は、行方不明だったジグソーパズルの一片が見つかって、ようやく完成したかのような喜びと、安堵感をもたらしてくれました。

女義の象徴ともいえるべき綾之助という名前が、今後も継承されていくためには、演奏者の精進とお客様の応援、ならびに安定した活動資金の確保が不可欠となります。どうか幅広く末永い御支援を!

朝重師ポラ賞受賞

平成十三年十月十七日、東京全日空ホテルにおいて第二十一回伝統文化ポラ賞の受賞式が行われた。



新年を迎えて

社団法人義太夫協会会長

景山正隆

新年おめでとうございます。
二十一世紀の二年目です。昨年は役員の改選が行われ、わが義太夫協会は心機一転、さらなる発展を期して新しい年を迎えました。今年も、新年早々竹本綾一さんが、四代目綾之助を襲名されるといふ慶事から始まる幸先のよい年です。そして、近年は、義太夫界において、も世代の交代が際立っています。後継者たるべき若手の方々は元より、正会員の皆さんのより一層の芸道精進を期待すると共に、義太夫節を愛好する方々のご支援、ご協力を切にお願いしなければなりません。

ところで昨年は、千代田城松の廊下における浅野内匠頭の刃傷事件が起こった元禄十四年から数えて丁度三百年に当たった年でした。ということとは、本年は、赤穂浪士の吉良邸討ち入りから三百年、そして、来年は、赤穂事件が一応の決着を見た赤穂浪士の切腹から三百年になります。ということは、本年を中心にしてこの三年間は、義太夫節にとって格別意義の深い作品「仮名手本忠臣蔵」の題材となっ

た一連の事件の三百年記念ともいうべき年間に当たります。協会の主催する女流義太夫演奏会をはじめ、義太夫教室などの普及事業においても、この歴史的な事柄に因んで斬新な企画が立てられることを期待したいものです。

加賀春
なごち年賀状

○賀午歳……須磨浦・大森彦七・小栗判官・両国橋引揚・清正誠忠録・長柄堤・実盛物語
・塩原多助

○無事に新たな年を迎えられた幸せをかみしめながら、又歩きつづけてまいります。

義太夫

朝重

○二〇〇二年おめでとうございます。名前は変わりますが中身はちっとも変わりません。これからもよろしくお願い申し上げます。

綾之助

○お正月に食べ過ぎて具合が悪くなったのは二十年も前のこと。両親はいつになったら忘れてくれるのでしょうか。

賀寿

○気魄のこもったメリハリのある三味線をめざして、今年も精進々々！

寛也

○公私共に充実した一年にしたいと思っております。

喜恵博

○北風はいやです。暖かい太陽の光を下さい。生きとし生けるものに。地の果てまでも。その時憎しみは消えるでしょう。心に暖かい太陽の光を下さい。

幸治

○今年の目標

- 1 電話引きます！
- 2 スキヤナ買います！
- 3 ドミンゴの「オテロ」聴きます！

越京

○「今年の名刺をつくろかなア」
「それじゃ、幻の義太夫語りと入れたら？」
と息子の弁。親子げんかになったです。今年もどうかよろしくお願ひ致します。

越孝

○今年もがんばります。

越道

○今年こそ五千円やせるぞ。(七二号参照)

越若

○昨年からテルミーと足揉みで親孝行してる気がしていますが、今年は気だけでなく、ステキな親孝行をしたいです。

駒治

○地面にしっかり根がはれるようがんばりまーす。やっぱり竹のモトだから。

駒輝

○健康に留意しながら、初心を忘れず一日一日を大切に過ごして参りたいと思います。本年も宜しくお願い致します。

駒之助

○謹賀新年。今年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

八王子車人形 古柳

○謹賀新年。今年もクリスマススイングまで働きます。皆様も今年のイヴはないですね？さあ、十頁を御覧下さい……。

三寿々

○本年もどうぞよろしくお願いいたします。

慎治

○明けましておめでとうございます。今年は大変なカエルグッズコレクションのさらなる充実にとめたいと思います。

津賀榮

○えーっ!?も新年のごあいさつの時期!?今年の女義は、綾之助襲名からスタートです。めでたい!

津賀寿

○昨年初舞台をさせて頂き、二年目になります。今年も精一杯がんばります。

津賀花

○健康に気をつけて、まわりの人に迷惑をかけるないようにやっていきたいと思えます。がんばります。

土佐恵

○新年おめでとうございます。先の遠い芸の道、牛にひかれて……ゆっくりと……イエイエ、今年は午年です。元気に跳ねまわれませう。

土佐子

○春風駘蕩明けましておめでとうございます。昨年のテロ事件人と人の争い今年も午年若い力で跳返し幸ありますよう。

友路

○……がむばる。今年も長い目でおつきあいください。

春之助

○激動の二〇〇一年でありましたが、今年も安心して芸事に精進しウマくなりますように努力しましょう!!

正一郎

○おめでとうございます。皆様にお目にかかる機会が少なくなりましたが、日々健やかにと願っております。

素八

○台風ニモマケズ、のお客様、教室受講生に感謝感激。メゲそうな私を励ましてくれる。私もマケナイ!

素丸

○昨年は我家にとって新生活の幕開け。今年ほどの様に展開させるかが課題。日々を笑顔で頑張ります。

紋榮

○おめでとうございます。マイペースで進んでゆけたらと思っております。本年もよろしくお願い申し上げます。

弥栄

○あけましておめでとうございます。世の中が平穩無事であることを祈ります。

弥吉

○新年を迎え、日本伝統文化に対して関心の高まりつゝある昨今、義太夫の継承発展に全力を挙げて取組み、更なる飛躍を祈ります。

弥乃太夫

○新年おめでとうございます。今年も、カゼに負けない体力と気力を身につけ、パワフルに過ごしたいと思えます。

佳之助

○明けましておめでとうございます。これからも健康で長生きして、早く孫の顔が見たい……。

柴田良子



竹本人

——鶴澤正一郎師の巻



新年明けましておめでとうございます。編集部から、何か修業中の話をして欲しいとのこと、今回は文楽時代のことを思いつくままに申し上げます。

私は岡山の出身で、子供の頃から楽器を扱うのが好きでした。たまたま初めに義太夫の三味線に出会いましたが、これが洋楽器だったらそちらの方に行ったかも知れません。近所にいらした野澤吉加師に手ほどきをしていただき、やはり岡山出身の、鶴澤清友（のちに二代目道八）さんを頼って大阪に出ました。昭和二三年、十七歳でした。

清友さんは四代目の鶴澤清六師の門弟でしたので、今度弟子を取ろうと思えますと相談されましたら、お前はまだ弟子を取るには早い、わしの弟子にする、と清六師の弟子ということになりました。本名の村上好衛（よしえ）にちなんで『鶴澤清好（せいよし）』の芸名をいただき、初舞台は東京有楽座で『道行初音旅』のツレでした。

師匠が楽屋入りされる前には、身の回りの物を整えておきます。小さな絨毯の敷物を敷いて、物を置く場所も決まっています。夏場は麻の白い着付を着ますが、舞台を下りられま

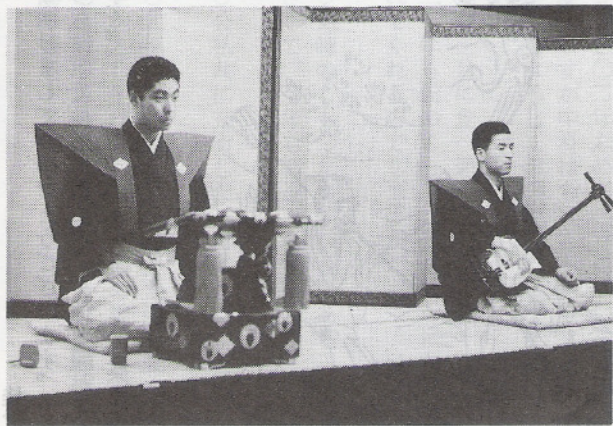
すと霧を吹いてきれいに畳み、ござの間に入れて敷きのしをします。ハンガーからはずして直接着せるということはありませんでした。かならず、一度畳んでボテ（衣裳行李）に入れてからお着せしました。師匠は口うるさくおっしゃる方ではありませんでしたが、だいた

い顔色で「あ、機嫌が悪いな」と察したりしました。舞台上に師匠が向かわれるときには、兄弟子の新三郎さんが三味線を持ち、清友さんが撥を持ち、私は小物箱を持ってついてま

いります。そして、御簾内へ上がりまして師匠の勤められます舞台を聴かせていただくのですが、これが一番の勉強です。撥遣いや指遣いを見ようと御簾におでこをくっつけて見るのですが、誰かがいたずらして御簾に墨をぬっておいのが付いたこともありました。

ほどなく組合問題がおこり、文楽は因会と三和会に分裂しますが、私は師匠に付いていました。ところが師匠が豊竹山城少掾師と相

三味線を解消、文楽座も退座、東京に引越されました。私も師匠に付いて山王下のご自宅で内弟子をいたしました。山王下には東京の素人義太夫のお客様、女流の土佐廣・猿幸



現・市川猿之助丈の『引窓』を弾く。（昭和30年）

・仙廣の皆様が毎日お稽古に見えていました。師匠は歌舞伎の市川猿翁さんとも親交が深く、先代段四郎・団子（現・猿之助）親子さんもお稽古に見えていました。師匠の会『清六会』のおり、団子さんと一緒に『引窓』を弾かせていただいた思い出があります。

そのうち、師匠が「いづれ役に立つから」と皆さんのお稽古の合間に切場を稽古してくださいました。二年間で十段、大物ばかり。これが今日どれだけ役に立っていることか。『酒屋』の「今ごろは半七つあん」や『熊谷陣屋』の「十六年は一昔、夢であったな」どころも、ウレイのツボの「チン」を弾きます



が、「それぞれ違う気持ちのチンだから」というようなことも教えていただきました。当時、どう気持ちを入れていいの全然解りませんでした。『袖萩祭文』では「皮も破れし三味線の」というところは破れ三味線の音を出すのにこう弾くのだとやってくださいました。二の糸（解放絃）を叩くのも、息を詰めて腰が据わり、腹に力が入っていないと、師匠のように裏皮に抜ける音がしないのです。

日本の音フェスティバルを見学して

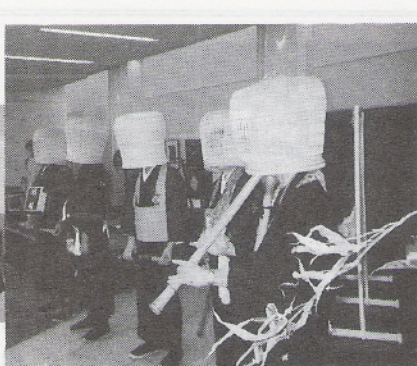
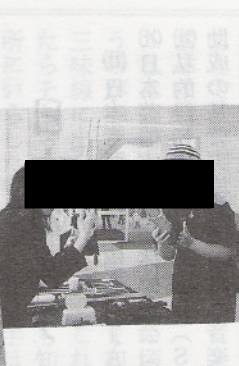
(財)日本音楽著作権協会（JASRAC）と(財)日本芸能実演家団体協議会（芸団協）と(財)私的録音補償金管理協会（SARAH）の助成の基で実施してきた「音楽創生」の五年目のイベント。ここ数年、和の文化の良さを見直す動きが顕著になり、平成十四年度か

昭和二十七年五月、師匠が豊竹松大夫さんを弾いて文楽座に復帰することが決まりました。師匠は松大夫さんに「（声がその音階に）届かなくても逃げるな」という教え方でした。そういう稽古であり師匠がしぼったので、松大夫さんの美声が悪くなったのは師匠のせいだなんていう方もいましたが。私は、やはり音曲は人に聞かせるものですから、あまり聞き苦しい声を出すより、裏声を上手に使用って心地良く聞かせるべきだと思います。も

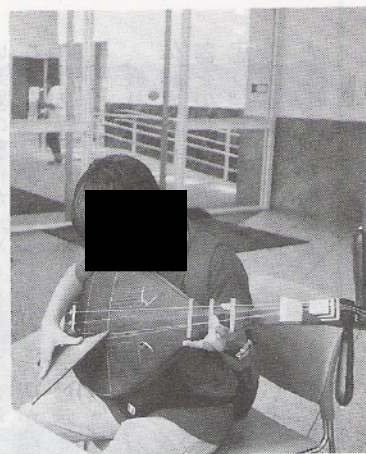
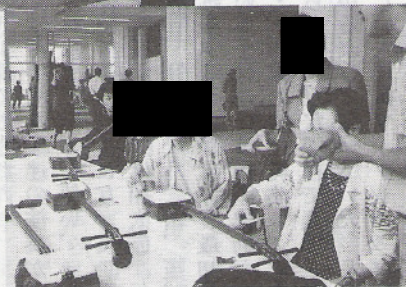
らは中学校の音楽授業でも和楽器体験が必修化されることになることを考慮して、「見て、聴いて、触れて、身体で感じるー日本の音フェスティバル」が企画され、二〇〇一年八月二九、三〇日国立オリンピック記念総合センターカルチャー棟で催された。まずロビーでは若手演奏家達の演奏が我々を迎え入れてくれた。棟全体を使い、テーマごとに邦楽を体感できるようにしていた。"和楽器・ザ・展示館"では和太鼓、伝統楽器（箏、三味線、琵琶、尺八、笛、笙、ひちりき等）を試奏することができ、最初はこわごわ触っている子供達の姿が印象的だった。その側では箏・三味線の製作実演コーナーがあり、材料からどのような過程で楽器となるかが一目でわかるようになっていた。さらに触れたい人にはワークショップが用

っとも初めから逃げて楽をしてはいけません。今の猿之助さんが『吉野山』の忠信の引っ込みで海老反りをしますと拍手喝采です。あれだって苦しさを感じさせないで、きれいな形をするからお客さんが感動するのだと思います。暗い幕明けの二〇〇一年でしたが、二〇〇二年こそ明るい年でありますように、若い人たちと共に修業に励んでいきたいと思っております。

意されていた。（和太鼓、箏、三味線、尺八、うた）特別「WA」体験ワークショップでは、箏、長唄、常磐津、義太夫、尺八、琵琶、小唄、清元、の講習が行われた。コンサートは「音のショーケース」と題され、各ジャンルの違いを聴き比べることができるようになっていた。演奏されたのは、長唄、琵琶、常磐津、新内、義太夫、清元、小唄、三曲。学校教育に導入されることもあり、最近特に、初心者に購入しやすく、使い易く維持しやすい楽器の製作が求められるようになってきた。これを実現すべく、多くの楽器店が開発してきた楽器が、新和楽器コーナーに展示され、ミニコンサートで音を聴けるようになっていた。盛りだくさんのプログラムで、二日で全部体験することはできないが、多くの人は邦楽器を少しは身近なものに感じてくれたことと思う。この様なイベントが一過性のものではなく長くまた全国各地で行われていくことが、とても必要に思えた。



音のショーケースに参加



体験ワークショップに参加して

20代 女性

土佐恵師指導の義太夫節ワークショップにもぐりこんだ。参加人数は十人程度であったが義太夫教室の一日体験教室よりも一人一人の声が大きい気がし、また熱心だった。二時間程の授業も短く感じる内容の濃いワークショップだった。

ロビーには三味線、箏などの和楽器が展示してあり普段手にする機会が無い雅楽器(笙・ひちりき)を自分で実際に音を出す事が出来、嬉しかった。が、各種の三味線(長唄用、津軽用など)が並んでいたが義太夫用が置いていないのが残念だった。

他にも学童用の三味線、エレクトリック三味線、スケルトンタイプのアクリル尺八などの新和楽器も展示してあり、興味深かった。様々な和楽器を見たりまた、演奏する人達と話が出来とても楽しかった。が、駅から会場までわかりづらく会場内でもいつ何が行われているのかもわからないのが残念だった。

知られていないのが残念!

20代 男性

普段はなかなか目にするのでできない珍しい楽器やその原木などが展示してあってとても面白いですね。実際に演奏もできるのでいろいろ触ってみました。ただ、これだけ大きな催しなのに僕の周りでもあまり知っている人がいないのが残念です。もっとたくさんの方が来られるように、例えば夏休み中などで子供たちが遊びに来るよう学校で企画してみるのがいいかもしれません。



終了後も熱心に質問

協会の動き

01年6月より
01年12月まで

「平成十三年度」

6月23日 備品部会

於国立演芸場第2研修室

6月25日 理事会

於松竹第2会議室

6月27日 芸術文化振興基金補助金交付

申請書提出

7月1・2日「じょぎ」公演 二日間

7月4日 編集部会 於上野広小路亭

7月5日 資料部会 於協会資料室

7月9日 常務理事会 於協会資料室

7月10日 竹本越道、越孝「母娘会」

7月12・14日 ルネッサながと浄瑠璃、三味線教室 於ルネッサながと

7月18日 女流義太夫演奏会「伊勢音頭恋寝刃」 於国立演芸場

7月23日 義太夫教室第54期初級閉講式 於空間WN

7月29日 一日体験教室

7月31日 公演部会 於ルネッサながと

8月1日 日本の音フェスティバル説明会 於協会資料室

8月1・2日「ぎだゆう座」公演 二日間 於上野広小路亭

8月9日 資料部会 於協会資料室

8月9日～11日 ルネッサながと浄瑠璃、三味線教室 於ルネッサながと

8月10日 著作隣接権センター13年度後期助成決定

8月10日 会報73号発行

8月17日 編集部反省会

8月22日 女流義太夫演奏会若手勉強会 於国立演芸場

8月23日 素浄瑠璃の会 於内幸町ホール

8月24日 普及部会 於協会資料室

8月27日 事業報告提出

8月27日 経理部会 於弥乃太夫宅

8月29日 音楽創生 音のショーケース出演

8月30日 音楽創生 ワークショップ講師 於上野広小路亭

9月1・2日「じょぎ」公演 二日間

9月3日 義太夫教室第54期中級開講 於空間WN

9月15・16日 乙女音楽出演 於松戸市 きもの川久

9月19日 女流義太夫演奏会「桂川連理柵」 於国立演芸場

9月21日 著作隣接権センター報告書提出

9月24日 車人形出演 於いちようホール

9月25日 PAN緊急会議 於オペラシティ会議室

9月26日 足利歌舞伎フォーラム打ち合わせ 於芸魂

8月29～30日 ルネッサながと浄瑠璃 三味

国立演芸場
女流義太夫演会

年 月 日	曜
14年1月16日	水
2月26日	火
3月26日	火
4月25日	木
5月22日	水
6月19日	水
7月17日	水
8月22日	木
9月26日	木
10月21日	月
11月26日	火
12月24日	火
15年1月16日	木
2月19日	水
3月19日	水

開場 6時
開演 6時半
月により日程が違います。
ご注意ください。
どうぞよろしく
お願い申し上げます。

10月22日	女流義太夫演奏会「一谷嫩軍記」	10月21日	女流義太夫演奏会「仮名手本忠臣蔵」
10月17日	ボーラ伝統文化賞授賞式 於東京全日空ホテル	12月21日	女流義太夫演奏会「仮名手本忠臣蔵」
10月12日	車人形出演 於あきる野市キララホール	12月1・2日	「ぎだゆう座」二日間 於上野広小路亭
10月12日	足利歌舞伎フォーラム出演 於足利市民会館	11月22日	女流義太夫演奏会「菅原授手習鑑」 於国立演芸場
10月11日	味線教室 於ルネッサながと	11月19日	日本の伝統芸能講座講師 於内幸町ホール
10月6日	祖先祭 於回向院	11月17日	第四回巴の会 於和音
10月6日	常務理事会 於回向院	11月10日	「義太夫は楽しい」その2 於和音
10月3日	編集部会 於協会資料室	11月7日	編集部会 於協会資料室
10月2日	日本芸術文化振興基金説明会 於こまばエミナース	11月1・2日	「じよぎ」公演 二日間 於上野広小路亭
10月1・2日	「ぎだゆう座」二日間 於上野広小路亭	11月1日	第34回竹本朝重りさいたる 於銀座ガスホール
9月30日	第六回駒之助の会 於紀尾井ホール	10月28日	第76回大日本素義会 於鳥越神社白鳥会館
9月28日	線教室 於ルネッサながと	10月24日	芸術文化の夕べ 於赤坂プリンスホテル
9月28日	第六回長月会 於上野広小路亭	10月24日	林住家「他 於国立演芸場

〈物故者〉
戸叶琢通(床世話) 平成13年6月9日 死去
中島平次郎(古平) 平成13年10月30日 死去
特別会員

〈寄付〉
大日本素義会様 三万円
和田 博様 十万円
竹本 朝重様 十万円
出月 清人様 五万円

〈寄贈〉
黒沼千津子様(24期) 三味線 1丁
駒2丁 ヤッコバチ 1丁
骨バチ 1丁 駒たたき 1ケ

教室テキストセットテープ一式
最近コンピュータウイルス大流行、ついに当協会も侵され、多くの方々にウイルスを配布してしまいお詫びいたします。今後こんなことのないようセキュリティに力を入れます!

【編集後記】

○男性陣の参加によりパワーアップ 乞うご期待!! (T)
○頼もしい編集長を中心に、新メンバーと共に頑張ります。引き続きよろしく。(Y・新K・S)
○新入り三人娘です。どうぞよろしくお願ひ致します。(M・K4・H)
○次回も「竹本人にきく」ご期待を。(あ)